

供覧

國史館編纂

國書記

川島

松田

新聞発表第六八四号

七月八日

南京政府側の策動せる

日支交渉交渉の内幕

胡漢民氏は南京政府が日本に對し最近頻りに

妥協交渉を進めんとする情報あるに鑑み

六日其代表者の名を以て左の如き意見を発表

表した

左記

『南京政府は蒋介石汪兆銘両者の内面的

葛藤北方時局の不安 西南政局の事實上の

獨立共產軍討伐の不可能 財政的窮乏等

にて將に倒壊せんとしてゐるが故にこの難局を

補縫する為日本を欺瞞し且國際政局を

有利に轉向せしめんとする不純なる動

機に出でたことは疑いを容れぬ所である

國民黨は永年に亘り教育と宣傳とを以て

民衆に排外思想を扶植煽動し特に現

時の支那人の排日侮日の心情は極めて旺

盛であるのみならず滿洲及上海問題の

内訌と外部に誘致する所謂對内政策
として利用し得る爲抗日の氣勢を目印めある
を以て政府要人が一時の方便として妥協交渉
を進むるも一般民衆は決して承知するもの下
はない

蔣は策謀の男汪は無節操漢西人共に匪細
匪の大問題も處理するの資格はないのだ

日本も金世思も蔣汪のこの奸策には乗せど
れが断然一蹴するであらうから彼等は取
つく島もなく益々窮境に陥るであらう

支那民衆も彼等の吹きなりす笛につれて
踊ることなく一意専心國民政府の打倒
に邁進すべきである